

【様式】 第2号の1～4－②

専門学校

(注) 様式第2号の1－②

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1－①を用いること。

(注) 様式第2号の2－②

※様式第2号の2－①に掲げる法人以外の設置者（公益財団法人、公益社団法人、医療法人、社会福祉法人、独立行政法人、個人等）は、この様式を用いること。

(注) 様式第2号の4－②

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4－①を用いること。

(申請書を作成する際には、1頁目を削除すること)

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	宮崎県立農業大学校
設置者名	宮崎県

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
専門課程	農学科		6単位 180時間	6単位 160時間	
	畜産学科		6単位 180時間	6単位 160時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

本校ホームページ (http://www.majc.ac.jp)
--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-②【(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置】

※ 様式第2号の2-①に掲げる法人以外の設置者（公益財団法人、公益社団法人、医療法人、社会福祉法人、独立行政法人、個人等）は、この様式を用いること。

学校名	宮崎県立農業大学校
設置者名	宮崎県

1. 大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織

名称	外部評価委員会
役割	<p>○審議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学校の重点目標、評価項目に関すること。 ・ 大学校の教育活動（教育課程、学生の進路指導、インターンシップ等の研修等）の在り方。 <p>○意見の活用方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 重点目標や評価項目について調整を図る。 ・ 授業内容や教育方法に反映させる等、教育水準の向上に活用している。

2. 外部人材である構成員の一覧表

前職又は現職	任期	備考（学校と関連する経歴等）
農業関係団体 専務理事	R6. 5. 24～R7. 3. 31	卒業生の就職受入れ
農業法人組織 会長	R6. 5. 24～R7. 3. 31	在校生の研修受入れ 卒業生の就農受入れ
(備考) 別添一覧参照		

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	宮崎県立農業大学校
設置者名	宮崎県

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>[授業計画(シラバス)の作成過程]</p> <p>① 前年度のカリキュラム委員会において、次年度のカリキュラムを決定</p> <p>② 各学科において「授業計画(シラバス)」(案)を作成</p> <p>③ カリキュラム委員会において点検、修正</p> <p>④ カリキュラム委員会から運営委員会へ提案、適宜各委員会において修正</p> <p>⑤ 校長の決裁により決定</p> <p>[授業計画(シラバス)の作成・公表時期]</p> <p>① 次年度のカリキュラムは、前年度の10月より検討を開始し、12月に決定</p> <p>② 1月より、各学科において「授業計画(シラバス)」(案)を作成</p> <p>③ 校長の決裁により決定</p> <p>④ 当該年度の4月初旬に公表</p>	
授業計画書の公表方法	本校ホームページ (https://www.majc.ac.jp) で公表

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

- (1) 年度始めにシラバス等を学生に配布し、各科目の内容及び評価方法・基準等を周知する。
- (2) 科目担当者は、試験や研修報告書、出席状況等により、次の基準で学生の成績評価を行う。

講義及び演習	知識 90点	出席点 10点	学習態度 20点を上限に減点		
実習	知識 40点	技能・技術 40点	出席点 20点	学習態度 20点を上限に減点	
インターシップ 自主企画研修	研修日誌 20点	研修報告書 30点	研修評価書 30点	出席点 20点	
学外研修	研修報告書 80点	出席点 20点	学習態度 20点を上限に減点		
国内外 農業体験研修	研修報告書 70点	出席点 30点	学習態度 20点を上限に減点		
卒業論文	テーマ設立 10点	研究内容 20点	データ整理 20点	論点整理 20点	自主的取組 30点

- (3) 科目担当者は100点満点で評価し、5段階（秀・優・良・可・不可）で評定を出す。

- (4) 単位修得や履修の認定は、成績評価をもとに運営委員会で審議し、(3)の結果に基づき、校長が認定する。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

・成績表値の区分

評 定	評 点
秀	90点以上
優	80点以上 90点未満
良	70点以上 80点未満
可	60点以上 70点未満
不可	60点未満

・指標の算出方法

$$GPA = \frac{\text{「秀」の単位数} \times 4 + \text{「優」の単位数} \times 3 + \text{「良」の単位数} \times 2 + \text{「可」の単位数} \times 1 + \text{「不可」の単位数} \times 0}{\text{受講登録した科目の合計単位数 (「不可」や途中で受講を中止した科目を含む)}}$$

- ・学科毎に成績分布状況を把握している。
- ・年2回の成績審議の他、各学期途中で単位修得及び出欠状況について把握し、成績不審者については通知表以外に奮起を促す文書を本人と保護者へ送付
- ・進級や卒業が危ぶまれる学生については、保護者同伴で単位修得状況及び出席状況を説明及び個別指導

客観的な指標の
算出方法の公表方法

本校ホームページ (<https://www.majc.ac.jp>) で公表

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

・卒業の認定に関する方針

県立農業大学校規則等に基づく所定の単位を修め、次の該当する能力や資質等を備えた者に、宮崎県農業士及び専門士（農業専門課程）の称号を付与する。

- ① 農業や食・農業関連産業が求める専門的知識や技術、資格を修得している。
- ② 実業家としての経営管理能力を習得している。
- ③ 技術革新や時代の変化に対応できる柔軟な応用力や課題解決力を習得している。
- ④ 社会人としての基本的な素養と豊かな人間性、表現力を身につけている。

・卒業の認定要件

「教育計画書における科目の中から、全ての必修科目を含む80単位以上の修得及び授業時数1700時間以上の授業科目の履修のいずれをも満たすことを要件とする。」

・卒業認定の手順

卒業の認定にあたっては、教務学生課が卒業の条件を満たしていることを確認できる成績審議資料を作成の上、運営委員会において審議し、校長決裁により卒業を認知する。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

本校ホームページ (<https://www.majc.ac.jp>) で公表

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	宮崎県立農業大学校
設置者名	宮崎県

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	
収支計算書又は損益計算書	
財産目録	
事業報告書	
監事による監査報告（書）	

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
農業		専門課程	農学科・作物専攻1年	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間 過程	1, 700単位時間/ 80単位	735 単位時間 /49単位	330 単位時間 /20単位	1290 単位時間 /43単位	0 単位時間 /0単位	60 単位時間 /2単位
			2, 415単位時間/114単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
134人		15人	0人	2人	11人	13人	

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
農業		専門課程	農学科・作物専攻2年	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間 過程	1, 700単位時間/ 80単位	600 単位時間 /40単位	195 単位時間 /13単位	1290 単位時間 /43単位	0 単位時間 /0単位	0 単位時間 /0単位
			2, 085単位時間/96単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
134人		11人	0人	2人	11人	13人	

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
農業		専門課程	農学科・野菜専攻1年	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間 過程	1, 700単位時間/ 80単位	735 単位時間 /49単位	330 単位時間 /20単位	1290 単位時間 /43単位	0 単位時間 /0単位	60 単位時間 /2単位
			2, 415単位時間/114単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
134人		11人	0人	2人	11人	13人	

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
農業		専門課程	農学科・野菜専攻2年	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間 過程	1, 700単位時間/ 80単位	600 単位時間 /40単位	195 単位時間 /13単位	1350 単位時間 /45単位	0 単位時間 /0単位	0 単位時間 /0単位
			2, 145単位時間/98単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
134人		15人	0人	2人	11人	13人	

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
農業		専門課程	農学科・花専攻1年	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間 過程	1, 700単位時間/ 80単位	735 単位時間 /49単位	330 単位時間 /20単位	1290 単位時間 /43単位	0 単位時間 /0単位	60 単位時間 /2単位
			2, 415単位時間/114単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
134人		4人	0人	1人	12人	13人	

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
農業		専門課程	農学科・花専攻2年	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間 過程	1, 700単位時間/ 80単位	600 単位時間 /40単位	195 単位時間 /13単位	1350 単位時間 /45単位	0 単位時間 /0単位	0 単位時間 /0単位
			2, 145単位時間/98単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
134人		6人	0人	1人	12人	13人	

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
農業		専門課程	農学科・果樹専攻1年	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間 過程	1, 700単位時間/ 80単位	735 単位時間 /49単位	330 単位時間 /20単位	1290 単位時間 /43単位	0 単位時間 /0単位	60 単位時間 /2単位
			2, 415単位時間/114単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
134人		10人	0人	2人	11人	13人	

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
農業		専門課程	農学科・果樹専攻2年	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間 過程	1, 700単位時間/ 80単位	600 単位時間 /40単位	195 単位時間 /13単位	1350 単位時間 /45単位	0 単位時間 /0単位	0 単位時間 /0単位
			2, 145単位時間/98単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
134人		5人	0人	2人	11人	13人	

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
農業		専門課程	農学科・茶専攻1年	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間 過程	1, 700単位時間/ 80単位	735 単位時間 /49単位	345 単位時間 /21単位	1290 単位時間 /43単位	0 単位時間 /0単位	60 単位時間 /2単位
			2, 430単位時間/115単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
134人		0人	0人	1人	12人	13人	

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
農業		専門課程	農学科・茶専攻2年	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間 過程	1, 700単位時間/ 80単位	615 単位時間 /41単位	195 単位時間 /13単位	1290 単位時間 /43単位	0 単位時間 /0単位	0 単位時間 /0単位
			2, 100単位時間/97単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
134人		1人	0人	1人	12人	13人	

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
農業	専門課程	農学科 フードビジネス専攻1年	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
	昼間 過程	1, 700単位時間/ 80単位	705 単位時間 /47単位	225 単位時間 /15単位	1365 単位時間 /46単位	0 単位時間 /0単位	60 単位時間 /2単位
			2, 355単位時間/110単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
134人	1人	0人	2人	11人	13人		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
農業	専門課程	農学科 フードビジネス専攻2年	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
	昼間 過程	1, 700単位時間/ 80単位	615 単位時間 /41単位	120 単位時間 /8単位	1410 単位時間 /47単位	0 単位時間 /0単位	0 単位時間 /0単位
			2, 145単位時間/96単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
134人	1人	0人	2人	11人	13人		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
農業	専門課程	畜産学科 フードビジネス専攻1年	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
	昼間 過程	1, 700単位時間/ 80単位	705 単位時間 /47単位	225 単位時間 /15単位	1365 単位時間 /46単位	0 単位時間 /0単位	60 単位時間 /2単位
			2, 355単位時間/110単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
134人	2人	0人	2人	8人	10人		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
農業	専門課程	畜産学科 フードビジネス専攻2年	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
	昼間 過程	1, 700単位時間/ 80単位	630 単位時間 /42単位	120 単位時間 /8単位	1410 単位時間 /47単位	0 単位時間 /0単位	0 単位時間 /0単位
			2, 160単位時間/97単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
134人	0人	0人	2人	8人	10人		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
農業	専門課程	畜産学科 肉用牛専攻1年	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
	昼間 過程	1, 700単位時間/ 80単位	795 単位時間 /53単位	300 単位時間 /20単位	1320 単位時間 /44単位	0 単位時間 /0単位	60 単位時間 /2単位
2年			2, 475単位時間/119単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
134人	18人	0人	2人	8人	10人		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
農業	専門課程	畜産学科 肉用牛専攻2年	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
	昼間 過程	1, 700単位時間/ 80単位	675 単位時間 /45単位	210 単位時間 /14単位	1380 単位時間 /46単位	0 単位時間 /0単位	0 単位時間 /0単位
2年			2, 265単位時間/105単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
134人	18人	0人	2人	8人	10人		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
農業	専門課程	畜産学科 酪農専攻1年	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
	昼間 過程	1, 700単位時間/ 80単位	795 単位時間 /53単位	300 単位時間 /20単位	1320 単位時間 /44単位	0 単位時間 /0単位	60 単位時間 /2単位
2年			2, 475単位時間/119単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
134人	8人	0人	1人	9人	10人		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
農業	専門課程	畜産学科 酪農専攻2年	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
	昼間 過程	1, 700単位時間/ 80単位	690 単位時間 /46単位	210 単位時間 /14単位	1380 単位時間 /46単位	0 単位時間 /0単位	0 単位時間 /0単位
2年			2, 280単位時間/106単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
134人	6人	0人	1人	9人	10人		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
農業		専門課程	畜産学科 養豚専攻1年	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間 過程	1,700単位時間/ 80単位	795 単位時間 /53単位	255 単位時間 /17単位	1320 単位時間 /44単位	0 単位時間 /0単位	60 単位時間 /2単位
			2,430単位時間/116単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
134人		2人	0人	1人	8人	10人	

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
農業		専門課程	畜産学科 養豚専攻2年	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間 過程	1,700単位時間/ 80単位	690 単位時間 /46単位	180 単位時間 /12単位	1380 単位時間 /46単位	0 単位時間 /0単位	0 単位時間 /0単位
			2,250単位時間/104単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
134人		0人	0人	1人	8人	10人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

[授業方法]

講義、演習、実習、実験、実技による授業を実施している。

[設置科目の区分]

- 教養科目は全学科共通科目である。
- 専門科目には、全学科共通科目、学科共通科目、専攻別科目がある。

[科目登録の区分]

次の3つがある。

- ・「必修科目」 単位修得を進級・卒業要件としている
- ・「履修科目」 履修しなければならない
- ・「選択科目」 学生の判断で受講登録をする

[科目の内容]

- 農業・畜産・食品等、専門に関する科目を設置している。
- 専門に関する科目以外に進路支援のための科目と社会性涵養のための科目を設置している。

[授業計画（シラバス）の作成過程]

- ① 前年度のカリキュラム委員会において次年度のカリキュラムを決定
- ② 各学科において「教育計画（シラバス）」（案）を作成
- ③ カリキュラム委員会において点検、修正
- ④ カリキュラム委員会から運営委員会へ提案、適宜各学科において修正
- ⑤ 校長の決裁により決定

[授業計画（シラバス）の作成・公表時期]

- ① 次年度のカリキュラムは、前年度の10月より検討を開始し、12月末に決定
- ② 1月より、各学科において「教育計画（シラバス）」（案）を作成
- ③ 校長の決裁により決定
- ④ 当該年度の4月初旬に公表

成績評価の基準・方法

(概要)

成績評価の方法

(1) 年度初めにシラバス等を学生に配布し、各科目の内容及び評価方法・基準を周知する。

(2) 科目担当者は、試験や研修報告書、出席状況などにより、次の基準で学生の成績評価を行う。

講義及び演習	知識 90点	出席点 10点	学習態度 20点を上限 に減点		
実習	知識 40点	技能・技術 40点	出席点 20点	学習態度 20点を上限 に減点	
インターンシップ 自主企画研修	研修日誌 20点	研修報告書 30点	研修評価書 30点	出席点 20点	
学外研修	研修報告書 80点	出席点 20点	学習態度 20点を上限 に減点		
国内外 農業体験研修	研修報告書 70点	出席点 30点	学習態度 20点を上限 に減点		
卒業論文	テーマ設定 10点	研究内容 20点	データ整理 20点	論点整理 20点	自主的取組 30点

(3) 科目担当者は100点満点で評価し、5段階（秀・優・良・可・不可）で評定を出す。

(4) 単位修得や履修の認定は、成績評価をもとに運営委員会で審議し、(3)の結果に基づき、校長が認定する。

卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進級の認定 進級の認定は、運営委員会において審査し、その結果に基づいて校長が行う。その場合、教育計画書における全ての科目の中から 40 単位以上の単位修得かつ授業時数 850 時間以上の科目を履修することを要件とする。 ・卒業の認定 卒業の認定は、運営委員会において審査し、その結果に基づいて校長が行う。その場合、教育計画書における科目の中から、全ての必修科目を含む 80 単位以上の修得及び授業時数 1,700 時間以上の授業科目の履修のいずれをも満たすことを要件とする。
学修支援等
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年 2 回の成績審議の他、各学期途中で単位修得及び出欠状況について把握し、成績不振者については通知表以外に奮起を促す文書を本人と保護者へ送付 ・進級や卒業が危ぶまれる学生については保護者同伴で単位修得状況及び出欠状況を説明及び適宜個別指導

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
〔 農学科 〕			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
29人 (100%)	2人 (6.9%)	26人 (89.7%)	1人 (3.4%)
(主な就職、業界等) 就農（自営、雇用、研修）、農業団体、農業関係企業、公務員、農業関係以外企業			
(就職指導内容) <ul style="list-style-type: none"> ・ハローワーク面談（個別面談） ・農業振興公社面談 ・農業法人や農業関連企業等との就職相談会 ・教員による進路指導面談、マナーアップ講座、進路講話 			
(主な学修成果（資格・検定等）) <ul style="list-style-type: none"> ・大型特殊車両免許（農耕用） ・けん引（農耕用） ・農薬散布用ドローン操縦資格 ・危険物取扱者乙種 4 類 ・日本農業技術検定・農業簿記検定 ・土壌医検定 3 級 等 			
(備考)（任意記載事項）			

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
〔 畜産学科 〕			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
20人 (100%)	0人 (0%)	20人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 就農（自営、雇用）、農業団体、農業関係企業			
(就職指導内容) ・ハローワーク面談（個別面談） ・農業振興公社面談 ・農業法人や農業関連企業等との就職相談会 ・マナーアップ講座、進路講話			
(主な学修成果（資格・検定等）) ・大型特殊車両免許（農耕用） ・けん引（農耕用） ・家畜人工授精師 ・2級認定削蹄師 等			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
114人	2人	1.8%
(中途退学の主な理由) ・欠課時数超による単位不認定により進路変更希望 ・就学意欲の衰退		
(中退防止・中退者支援のための取組) ○中退防止のための取組 ・指導職員による個別相談実施 ・指導職員と保護者との連携による支援指導 ・保健指導職員による個別相談実施 ・職員による悩み等の早期発見による、早期対応策の実施 ○中退者支援のための取組 ・農業法人等、就職先の情報提供		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
農学科	5,650 円	118,800 円	(寮生) 1,380,000 円 (通学生) 1,220,000 円	2年間の預かり金 (教材、研修費、資格受験料等)
畜産学科	5,650 円	118,000 円	(寮生) 1,380,000 円 (通学生) 1,220,000 円	2年間の預かり金 (教材、研修費、資格受験料等)
	円	円	円	
	円	円	円	
修学支援 (任意記載事項)				
<p>[授業料免除]</p> <p>○対象者</p> <p>ア 火災、風水害等により災害を受け、家計に重大な支障を生じた者</p> <p>イ 生活保護法 (昭和 25 年法律第 144 号) の規定による保護を受けている世帯に属する者</p> <p>ウ 当該年度に納付すべき地方税法 (昭和 25 年法律第 226 号) の規定による市町村税が非課税となる世帯又は均等割のみとなる世帯に属する者</p> <p>エ その他やむを得ない事情がある場合については、免除を受けようとする者の申し出により、知事が個別に判断を行うものとする。</p> <p>○免除の期間及び額</p> <p>ア 授業料の免除を行う期間は、認定の始期から当該年度の最終月までの範囲内とする。</p> <p>イ 認定の始期が 4 月の場合の授業料の免除の額は、各期分の授業料の全額とする。ただし、認定の始期が各期の途中の場合は、授業料の年額の 1/2 に相当する額に免除期間の月数を乗じて得た額とする。</p>				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://www.majc.ac.jp
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)
<p>1 名称 県立農業大学校 外部評価委員会</p> <p>2 設置目的 本県農業の担い手育成のために求められる質の高い教育を提供するとともに、地域に根ざした開かれた大学校づくりを推進し、大学校の自律的改善を図る。</p>

<p>3 所掌事務</p> <p>(1) 大学校の評価システムに関すること。</p> <p>(2) 大学校の重点目標、評価項目に関すること。</p> <p>(3) 農大校の教育活動（教育課程、学生の進路指導、インターンシップ等の研修等）のあり方について審議し、その内容を大学校へ提言すること。</p> <p>(4) その他大学校の評価に関する重要事項に関すること。</p> <p>4 組織の構成</p> <p>(1) 委員会は、委員長及び9名の委員をもって組織する。</p> <p>(2) 委員は農業関係団体、大学校同窓会、農業法人、農業関連法人、教育関係の有識者等から大学校の教育に関わりのある人物へ委嘱する。</p> <p>(3) 委員長は委員会を代表し、会務を総理する。</p> <p>(4) 委員長に事故あるとき、又は委員長が欠けたときは、委員のうちから委員長があらかじめ指名したものがその職務を代理する。</p> <p>5 体制</p> <p>委員会の会議（以下、「会議」という。）は、必要に応じて委員長が招集する。委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させることができる。</p> <p>6 評価結果の活用方法</p> <p>授業内容や教育方法に反映させる等、教育水準の向上に活用している。</p>
--

学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
宮崎県農業協同組合	R6. 5. 24～R7. 3. 31	農業関係団体
宮崎県農業法人経営者協会	R6. 5. 24～R7. 3. 31	農業関係団体
食育指導者	R6. 5. 24～R7. 3. 31	食育ティーチャー
農業法人	R6. 5. 24～R7. 3. 31	農業法人
女性農業者団体	R6. 5. 24～R7. 3. 31	農業委員会
宮崎県SAP会議連合	R6. 5. 24～R7. 3. 31	若手農業者団体
教育機関	R6. 5. 24～R7. 3. 31	県立農業高等学校
地元行政機関	R6. 5. 24～R7. 3. 31	産業推進課
県行政機関	R6. 5. 24～R7. 3. 31	担い手農地对策課
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)		
https://www.majc.ac.jp		
第三者による学校評価（任意記載事項）		

c) 当該学校に係る情報

<p>(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)</p> <p>https://www.majc.ac.jp</p>
